02 内科学第二講座

主任教授からのメッセージ

2012 年 4 月に私（塩島）が着任した時点で、内科学第二講座の女性医師は 15 名（26%）、産休中・育休中、あるいは育休から復職され短時間勤務をされている女性医師はおりませんでした。この原稿を執筆している 2021 年 1 月現在で、内科学第二講座の女性医師は 26 名（34%）、産休中・育休中の女性医師が 5 名、育休から短時間勤務の形で復職されている女性医師が 4 名おり、女性医師の勤務環境は最近数年間の間でもかなりの変化が見られます。関西医科大学全体として、また講座としても、出産・育児との両立支援、キャリアアップの支援などさまざまな取り組みを行っており、これらをうまく利用して個々人の状況に応じた働き方ができるようになればいいと思います。

○ 診療科の特徴

内科学第二講座は、高血圧症、糖尿病、脂質異常症、慢性腎臓病などの動脈硬化の危険因子から、狭心症、心臓弁膜症、急性心筋梗塞、心不全、不整脈、血液透析導入などの急性期の病態、その後のリハビリなど幅広い疾患を管理・治療する診療科です。超高齢社会の現在において、当科が占める役割はこれからもどんどん広がると考えます。ジェンダーレスで医療を行うことを基本としていますが、女性としての特性を守り、妊娠・出産の休業期間を終えてからの速やかな復帰という事にも医局全体として常に心を砕いています。また、患者さんの生活習慣を改善させるためには女性医師としてのきめ細やかな配慮が有利となります。

○ 診療科で働く女性医師

本学各附属病院およびクリニックで働く女性医師の総数は 26 名です。その内訳は、附属病院 13 名（循環器内科 4 名、内分泌代謝内科 5 名、腎臓内科 2 名、3 年目 2 名）、総合医療センター 9 名（循環器内科 2 名、内分泌代謝内科 4 名、腎臓内科 3 名）、香里病院 3 名、天満橋総合クリニック 1 名になります。

うち 4 名は産休・育休後に短時間勤務正職員制度で復職、その他の女性医師は産休・育休中を除いてフルタイムで各科の診療・臨床研究を行っています。

職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

産前産後休暇・育児休暇の取得は、話し合いの上、希望に沿った取得を目指しています。復帰に際しても、各自に合わせた勤務体制を取れるよう、短時間勤務正職員制度の使用などの案内も行っています。

○ 研修内容

休職前の経験度、休職期間などに合わせて、相談しながら対応していきます。当科は、循環器内科、内分泌代謝内科、腎臓内科と複数科に渡っています。内科専門医、各科専門医取得の有無に応じて、個々に合わせたプランで臨床経験を積めるようサポートしていきます。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

循環器内科、腎臓内科、内分泌代謝内科で構成されている内科学第二講座では戦力として働く女性医師が着実に増えています。出産・育児によってキャリアアップのための階段を止まらざるを得ない場合も多々ありますが、産休・育休は十分に取得いただけます。そして、出産後には専門医取得・博士号修得に向けて復職し、キャリアアップを目指してチャレンジしていただくことは十分可能です。このプロセスを円滑に運ぶため、復帰前に短時間勤務正職員制度、またはフルタイムでの復職について十分な時間と回数を重ね話し合った上で復帰していただいています。重要と考えている点はご自身が考えておられる女性医師像、母としての考え方、ご家庭の状況、伴侶の考え方などであり、個々に十分に話し合い、方向性が変わることも考慮しながら業務内容を決めていただきたいと思います。

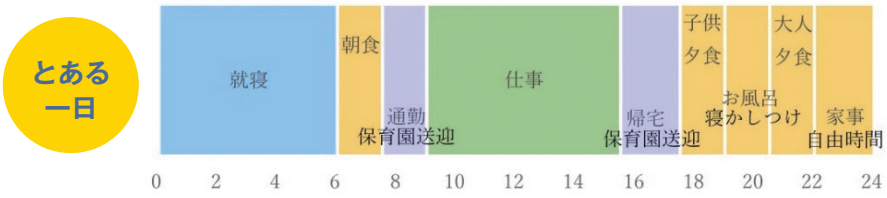
復帰した医師の声

体験談（A 先生）

私は、関西医科大学で初期臨床研修を行った後に、内科学第二講座に入局、卒後 8 年目で循環器専門医を取得しました。その後、卒後 9 年目で第 1 子を出産、約 1 年間の産休・育休を取得し、附属病院循環器内科に復職しました。

居住地の認可保育園は倍率が高く、認可保育園へ子供を預けることは厳しい状況でありましたが、院内保育所が併設されているため、復職することができました。

出産後、家事・育児にかかる時間が増え、通勤に時間がかかり、近くに頼る親もいない状況では、出産前と同様のフルタイム勤務には正直不安があり難しいと感じていました。しかし、女性活躍支援制度の一環である短時間勤務正職員制度を使用することで、平日 9 ～ 15 時の勤務時間で復職することができました。



こうやって短時間勤務にもかかわらず復職することがかなったのは、周りの先生方の理解があったからこそです。また復職直後は子供がよく熱を出し、早退や休みを取らざるを得なくなった時も多々ありましたが、臨機応変に先生方が対応下さり、日々感謝しています。

私が第二内科で初期研修をした当初から約 10 年が経過し、当講座で働く女性医師の人数も増え、結婚・出産後に復職し勤務している女性医師も増えてきました。日本循環器学会でも、女性会員の割合は年々増加傾向にあり、学会でもキャリアアップ支援が充実しつつある状況です。他の女性医師が多くを占める医局とは違い、なかなかキャリアプランを想像しにくい部分もあるかと思いますが、循環器内科・内分泌代謝内科・腎臓内科に興味がある先生方には、ぜひ一度教室を訪ねていただければと思います。

体験談（B 先生）

私は第 1 子を研修医 2 年目に妊娠しました。ちょうど進路に迷っている時期でしたが、子育てと仕事の両立についても鑑みて内分泌代謝内科を専門としていくこととしました。

医師 3 年目の入局 3 か月後に産休・育休を迎え、4 年目の 4 月から短時間勤務正職員制度を利用し平日 9 時～ 15 時の仕事復帰を行いました。託児には院内保育所を利用させていただき、仕事の合間に授乳を行えたので非常に助かりました。5 年目からは糖尿病・内分泌のスキルアップのため出向させていただけることとなり、しっかり学ぶためにもフルタイム勤務（当直は免除）へと変更しました。子育て女医にとても理解のある職場の方々に恵まれたことと、主人と娘のサポートがあったおかげで 2 年間の充実した出向期間を終えました。7 年目春からは総合医療センターで当直も含めたフルタイム勤務を始めましたが、現在は第 2 子を妊娠したため再び当直は免除していただいています。

関西医科大学はもともと女子医専であったこともあり女性医師の支援に積極的に力を入れてくれています。ライフステージにより働き方を大きく変えることが多い女医にとって、サポートシステムが整っていることや周りの理解があることは医師を続けていく上でとても心強いです。今後もたくさんの先輩女医さん達の働き方を参考にさせていただき、医師として活躍できたらなと思います。